

本論文は

世界経済評論 2023年9/10月号

(2023年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

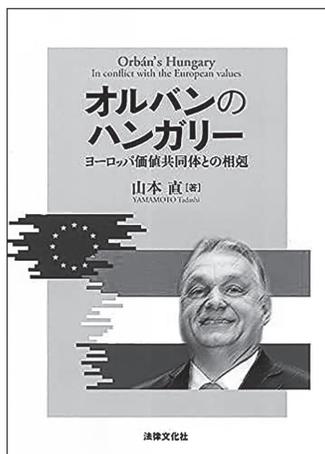
お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

オルバンのハンガリー ：ヨーロッパ価値共同体との 相剋

久留米大学名誉教授
日本 EU 学会名誉会員 児玉 昌己



[著者] 山本 直 (やまもと ただし)

日本大学法学部教授

[発行] 法律文化社, 2023年5月

[判型] A5判, 260ページ

[定価] 本体 5,800円+税

本書は著者の欧州の人権状況への長年の問題意識を基礎にし、EUを「ヨーロッパ価値共同体」として捉え、EUが掲げる民主主義、法の支配などの価値とそれに抗するハンガリーの対立に焦点を当てた書である。著者は日本EU学会理事長を務められた欧州議会研究のパイオニア故金丸輝男（同志社大学法学部教授）先生の指導を受けた最後の研究者の一人である。

ハンガリーは第2次大戦後、東欧の市民革命の先駆となったハンガリー動乱から、近年では東西ドイツの統一と、ソ連の消滅につながるヨーロッパ・ピクニック計画まで欧州の民主化の起点となってきた。だが、近年オルバンのハンガリーは自国でEUと対立し、更にはウクライナを巡るEUの対ロシア統一政策の形成に悪影響を及ぼしている。さらには対外的には反EU主義のポピュリズムを刺激し、反EU勢力

の連携にも影響していると指摘する。

ところでハンガリーを含めEU加盟国ではEUを語らずには意味をなくすほどに、影響は大きい。実際、ハンガリーではインフラ整備の55%が、ポーランドでは60%がEUからの資金に負っていることから知れる（本書126頁）。

加盟国ではEUからの財政支援を含め、EUが関係する政策は、EU基本条約に発するEU法体系に基づき、EU法の規律の中で展開される。それがゆえ、EU加盟国の研究はEU法の理解を離れてはあり得ない。ハンガリーとEUの攻防が、EU条約第7条が定める加盟国の「権利停止手続」、 「予防手続」、さらにはEUが「規制」として制定した「法の支配コンディショナリティ」において扱われているのは、それがゆえにである。

評者にとって興味深いのは、欧州理事会でのハンガリーの対応や、欧州議会内の最大政党の欧州人民党（EPP）での各国指導者の思惑を扱った第4章で、EUの政党政治の実際を知るうえで貴重である。

EUについては2015年前後、EU解体論や統合終焉論が溢れた。しかしEUは危機への高い復元力で、ユーラシアにおける地政学的重要性をむしろ高めている。ロシアの侵略を契機に今やウクライナ、モルドバ、ジョージアがEU加盟に動いている。こうしたEUであるが、本書でとりあげられたEUの価値やEU財政を巡る対立抗争は、現加盟国でも加盟予定国でも今後起こりうることである。

EUにおいて「共通の価値」とは何なのか、EUの価値との対立が起きればいかなる事態となるのかを本書で我々は知る。ユーラシアにあってその意義をさらに高めるEUだが、その民主主義に対するEUの持つ倫理性は貴重である。

本書がEUの加盟国の研究において、EU機関を含めたアクターの重層的な分析の重要性を指摘し、EUにおける民主主義の実践を示した点で価値があり、EUや加盟国の政治に関心のある読者諸賢に一読をお薦めしたい。

(こだま まさみ)